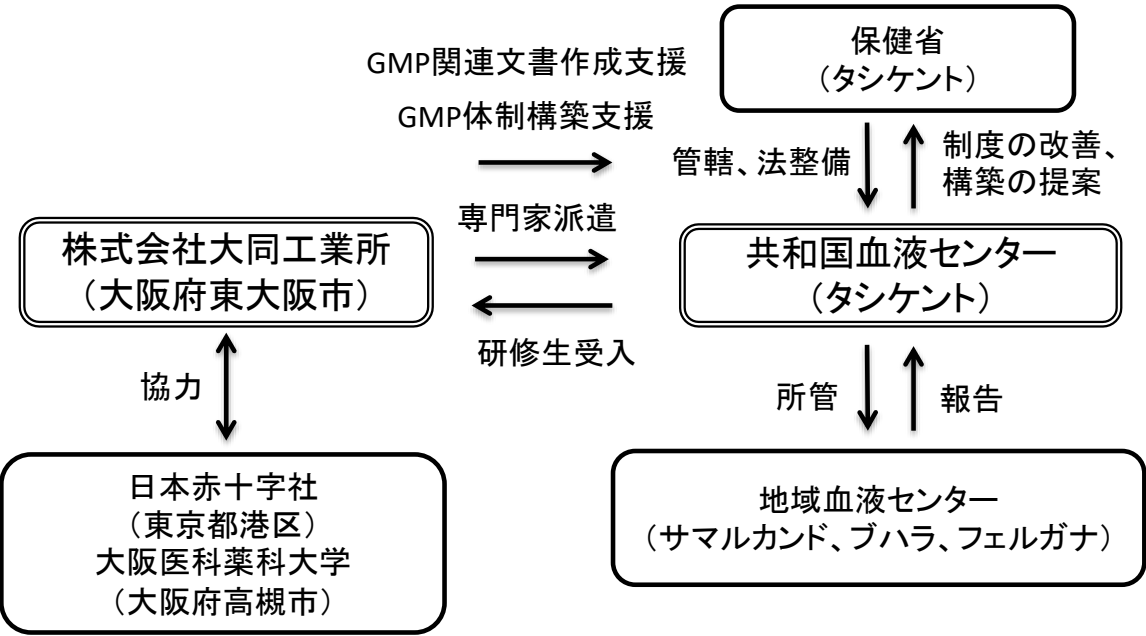


ウズベキスタンにおける血液製剤保管輸送体制強化支援事業 3年計画の1年目

1. ウズベキスタンの年間献血者数は280,654人（2023年）、人口比0.8%の状況であり、WHOの推奨する人口比1%を下回る。血液保管輸送体制を強化し、輸血医療のユニバーサル・ヘルス・カバレッジの達成に寄与する。

2. ウズベキスタン保健省共和国血液センターは、国際的なGMP体制の構築を目指しており、血液センターで運用するGMP総則、基準書、手順書などの文書体系を整備する必要がある。大同工業所、日本赤十字社および大阪医科薬科大学は、専門家派遣および日本での研修受入を通じて、妥当性確認、機器管理、変更管理、逸脱管理などGMP体制に必要な文書作成を支援する。

3. 3年間の事業で、共和国血液センターのGMP管理文書を地域血液センターに浸透させ、ウズベキスタン血液事業を発展・拡大させると同時に、日本式医療技術がイニシアチブをとる分野を形成する。



- <研修スケジュール予定>

2026年6月 専門家派遣(5名)
・共和国血液センターでのGMP管理構築研修

2026年8月 専門家派遣(4名)
・サマルカンド血液センターでのGMP管理構築研修

2026年10月 本邦受入研修(3名)
・日本の医療機関等で、品質管理、安全管理、保管輸送技術等の研修

2027年1月 専門家派遣(6名)
血液事業における品質管理体制、輸血の安全性向上に関する研修、シンポジウム